

---

# 僕は幽霊だから友達がいない

ダイバ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

僕は幽霊だから友達がない

### 【Nコード】

N5921Y

### 【作者名】

ダイバ

### 【あらすじ】

もしも隣人部に地縛霊がいたら

## 第一話（前書き）

間違えてR 18に登録してたので、再投稿しました

## 第一話

あゝあ。

やっぱり気づいて貰えないや。

残念だなあ。

どうも！

俺、三年前にこの学校で転落事故で死んだ寺村卓磨っていいます！

いやゝ本当につまんない

何故か死んでからずっとこの学校に地縛霊としてるんだけどさ

誰も気づいてくれない訳よね

うん。

はーあ。

なんとかならないもんかねえこれ。

暇で暇でしゃーないのよねゝ

と、というところで、卓磨兄さんは今、気になってる女の子を見てきま  
す

「ああ。そうだったな、友ちゃん」

「なに？嫌だなあそんなことあるわけ無いじゃないか。私は……………」

あ、みーっけ

いやー今日もやってるねえ。友達ごっこwwwwww

黒髪にちよつとツリ目。巨乳ではないけど形は良いしハリも良い美乳を持つこの子は「三日月夜空たん」まーじ可愛い。

普段は不機嫌そうだけど、放課後はいつつも教室に残って友達ごっこをしている。

そんでね、この時の彼女の顔はすっごい可愛い。

ギャップ萌えてやつだよ、ギャップ萌え。

……俺と彼女の二人っきりの秘密って、いいよね！ジュルリおっと、よだれが……

残念な事に俺は彼女に触れることは出来ない。

物とか犬とかは触れるから、どうやら人間に触れることだけが無理っぽい。

地味ながら、学校の裏庭の手入れをやってます

ガチャ

？

あ。

……えっと、

たしか、一ヶ月前に転校してきた髪染めてるけどラノベとか読んでいる中途半端不良くん。  
名前なんだっけ？

ていうか、この状況は夜空たんヤバくない？

おもいつきしばれたよね。友達ごっこ。  
恥ずかしくて顔赤らめて下向く夜空たん可愛すぎハアハア

「もしかして、幽霊とか見えたりする？」

あら、不良くん勘違いしてるんじゃない？

そうか。これならそうだって言って適当にまかせるかな？

「私は喋っていただけだ。」

うん。そこで幽霊っていうんだよね。

「エア友達と！！！！」

……………残念すぎるよ夜空たん。

まあ、そういう性格が好きなんだけど（笑）

## 第二話（前書き）

遅くなってすみませんって一応言っとく



## 第二話

「私は喋っていただけだ！エア友達と！！」

うわぁ

言っちゃった

言っちゃったよ夜空たん（汗）

うあ、不良くん。すげえ顔してる…………

なんか下手なガン付けみたいだwwwwwwww

「エ、エア友達…？」

まあそう聞くよね。

誰だってそうする俺だってそうする。

「エアギターと言うのがあるだろ、あれの友達版だ」

なんか楽しそうだな夜空たん…wwww

「つまり何か、そこに友達がいると言う仮定で話してるのか」

「仮定じゃない！トモちゃんはホントにいるんだ、ここに」

これ見よがしに右を指差してもなんも見えねえっス夜空たんwwwwww

「さつきも、中学校の頃に二人で遊園地に行ったら数人の男子にナンパされたんだけどその中にイケメンの新任の教師がいたという設定で話して多いに盛り上がっていたところだ」

今設定って言ったぞ！

「設定！今設定って言った！」

おお、ナイスツツコミだ不良くん。

「言ってるない。あれは本当にあったことだ」

…………… W W W W

「……………どこまでが本当にあったことなんだ？」

「『中学校のとき』」

下向きながら頬膨らませるとか萌え！

…ていうか、

「ほぼ100%ねつ造じゃねえか！」

この不良くん、ツツコミスキル半端ねえな W W

「せめて遊園地に行ったくらいは事実であってほしかった……………」

「一人で遊園地に行っって何が楽しいんだ？」

一人カラオケならぬ一人遊園地 W W W W W  
魅力を一切感じねえ W W W W W W W W W W W

「一人って認めてるじゃないか」

「あ、今のなし。トモちゃんはとても可愛くて遊園地なんかに行ったら絶対に変な男が寄ってくるに決まってるから仕方なく脳内遊園地で我慢しているだけだ」

これさ、美少女だから許されるけど一般的な女子だったらドン引きだよ

「エア友達に脳内遊園地、だと……」

不良くんが哀れむような目で夜空たん見てる。  
そっぴや最初は俺もそんな風に反応してたな

「…何だその目は」

ムツとした顔萌ええええ

「いや、その……」不良くん、たじろいでる W W W W W

「……友達とお喋りしたいならリアルで作ればいいんじゃないか？  
……その、エア友達とかじゃなくて現実の友達を……」

友達を作ればいいんじゃないかな！キリッ

おまえが言うな！

「ふん、それができたら苦労はしない」

ていうか、ボッチ二人が仲良くなるって、よくあるケータイ小説の展開にあるくない？

俺の夜空さんは渡さねえぞ不良！

「ん。よく見ればお前、クラスでいつも一人でいる転校生じゃないか」

「お前に友達についてどうこう言われる筋合いはないぞ転校生」

今気づいたのか？

てつきり同じクラスだからべらべら話すのかと……

「……もうこの学校に来て一ヶ月も起つんだし、『転校生』はやめてくれ」

「……名前、なんだ？」

あ、俺も気になってた

「……長谷川小鷹」

小鷹、か。覚えとこ

「小鷹、か。……ふん、小鷹に友達についてどうこう言われる筋合いはない」

夜空さんとシンクロナキターー！（。）。……  
っていうか呼び捨て羨ましい

「いきなり呼び捨てかよ……」

「？それが何か？」

きよとんとする夜空たんマジヤバイ。ハアハア

「……べつになんでもない」

なんで小鷹少し嬉しそうなんだ？

まさか…コイツ俺と同族！？

「…一ヶ月も経って一人も友達がいらないなんて、小鷹は寂しいやつだな」

その哀れむような目！

完璧にご褒美です！！！！

「エア友達作ってるやつに言われたくねえよ！」

…それ禁句だぞ不良くん。

「トモちゃんを馬鹿にするな！トモちゃんはな、可愛いくて頭もよくて運動神経抜群で優しくて話し上手でし聞き上手で、それに……」

……トモちゃんは絶対に裏切らないのだ……」

裏切らない……？

…ていうか、夜空たん普段から想像できないくらい喋るねえ。

第二話（後書き）

中途半端ですんません  
WWW  
WWW  
WWW  
WWW

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5921y/>

---

僕は幽霊だから友達がいない

2011年12月4日01時46分発行